



江戸川に物産直売所オープン

島村商店と白鷺特別支援学校が連携

「優しい」地元産シイタケも販売

西小松川産のシイタケはいかが？ 株式会社島村商店（江戸川区松江）が、都立白鷺特別支援学校（同区東小松川）と連携して今月10日、シイタケや地方の物産品を販売する直売所「まていマーケット」を同社の自社ビル1階（同区西小松川町22の4）にオープンした。ビル2階には約150坪の「シイタケ農場」があり、3500個もの菌床が並んで何とも不思議な光景を見せている。

同社がシイタケ栽培を始めたのは昨年2月。生産品はこれまで同校や江戸川区内の小・中学校の給食用として卸してきたが、直売するのは今度が初めて。袋詰めされたその商品名は「優しいシイタけ」。採取したシイタケは、同ビル屋上のビニールハウスで4、5日天日干しすることから、袋に貼られた商品シールには「江戸川の風と太陽に抱かれ愛情いっぱい育ちました」の文字が添えられている。

直売所の名の「まてい」は、「元々」「両手」を指す言葉が転じて「手間を借します丁寧」という意味になった東



初日の「まていマーケット」の店内



菌床が並ぶ、シイタケ農場

て直売所を開いたと説明し、「夢は一步ずつ近づいているな」と喜ぶ。

そのほかにも、同社が稲田を持つ千葉県鴨川市畑地区の野菜を始め、江戸川区と姉妹都市提携する山形県鶴岡市の乾麺、茨城県つくば市の無農薬ブルーベリー、青森県弘前市の「奇跡のりんご」かりんとうなど個性的な品々を販売。「シイタケはしっかり天日干ししているの、味はいいと思います」とアピールする同社の澤村隆さんによると、今はまだ直売所の営業日が不定期だが、学校と相談して決めていく予定で、同社の「ホームページ上でも告知をしていければ」という。

以前の同校と親交がある同社の嶋村文男社長は、社会的弱者も一般の人とともに生活し、活動することが正常な社会のあり方とする「フォーマライゼーション」の考え方に立つ

北の方言。この直売所の場でもある。初日のもう一つの特徴は、特別支援学校との連携。生徒にとっては就業体験の場であり、学校の作業実習で作った商品の販売や作品展示の場でもある。10日は、作業実習の農耕班が育てた鉢植えを販売し、陶工班の陶器や、美術の時間に描いた絵などを展示した。オープン前からシイタ